

一、香 偈

香華をささげ 身も心も清浄にせしめたまえと念じ
十方三世のみ仏を供養いたします

八下

願我身淨如香爐

願我心如智慧火

念念焚燒戒定香

供養十方三世佛

願わくは我が身淨きこと香爐の如く

願わくは我が心智慧の火の如く

念々に戒と定の香を焚きまつりて

十方三世のみ佛に供養したてまつる

二、三寶禮

まごころをささげ 仏法僧の三宝を礼拝いたします

一心敬禮

十方法界常住佛

一心敬禮

十方法界常住法

一心敬禮

十方法界常住僧

一心に敬つて

十方法界常住の佛を禮したてまつる

一心に敬つて

十方法界常住の法を禮したてまつる

一心に敬つて

十方法界常住の僧を禮したてまつる

三、三奉請

御本尊阿弥陀仏をはじめ 諸仏をお迎えいたします

奉請彌陀世尊入道場

奉請釋迦如來入道場

奉請十方如來入道場

請じ奉る彌陀世尊 道場に入りたまえ

請じ奉る釋迦如來 道場に入りたまえ

請じ奉る十方如來 道場に入りたまえ

四、懺悔偈

この世に生を受ける前より 今日まで造ってきた
我が罪を悔い改めることを お誓いします

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋癡

從身語意之所生 一切我今皆懺悔

我れ昔より造る所の諸の惡業は 皆無始の貪瞋癡に由る
身語意より生ずる所なり 一切我れ今懺悔したてまつる

五、十念

南無阿彌陀佛 十遍

六、歎佛偈

み仏の妙なるご功德を敬い お讃えいたします
こころから帰依し お頼りいたします

如來妙色身 世間無與等 無比不思議 是故今敬禮
如來色無盡 智慧亦復然 一切法常住 是故我歸依

如來の妙色身は世間にとともに等しきものなく 無比不思議なり

是の故にいま敬禮す 如來の色は無盡なり 智慧もまたまたし

かなり 一切の法は常住なり 是の故に我れ歸依したてまつる

七、開經偈

いままさに尊いみ教えを拝受することを感謝いたします

無上甚深微妙法 百千萬劫難遭遇

我今見聞得受持 願解如來眞實義

無上甚深微妙の法は 百千萬劫にも遭い遇うこと難し

我れ今見聞し受持することを得たり

願わくは如來の眞實義を解したてまつらん

八、佛說無量壽經 四誓偈

阿彌陀仏が法蔵菩薩の時 四十八願の結びとして説かれたみ教えです

● 我建超世願

必至無上道

斯願不滿足

誓不成正覺

我於無量劫

不為大施主

普濟諸貧苦

誓不成正覺

我至成佛道

名聲超十方

究竟靡所聞

誓不成正覺

離欲深正念

淨慧修梵行

志求無上道

為諸天人師

神力演大光

普照無際土

消除三垢冥

廣濟衆厄難

開彼智慧眼

滅此昏盲闇

閉塞諸惡道

通達善趣門

功祚成滿足

威曜朗十方

日月戢重暉

天光穩不現

為衆開法藏

廣施功德寶

常於大衆中

說法獅子吼

供養一切佛

具足衆徳本

願慧悉成滿

得為三界雄

如佛無礙智

通達靡不照

願我功慧力

等此最勝尊

斯願若剋果

大千應感動

虛空諸天人

● 當雨珍妙華

佛説無量壽經四誓偈

我れ超世の願を建つ、必ず無上道に至らん。斯の願満足せずんば誓つて正覺を成ぜじ。我れ無量劫に於いて大施主となつて、普く諸の貧苦を濟わずんば誓つて正覺を成ぜじ。

我れ佛道を成ずるに至らば名聲十方に超え、究竟して聞ゆる處なくんば誓つて正覺を成ぜじ。離欲と深正念と淨慧との修梵行をもつて、無上道を志求して諸の天人師とならん。神力大光を演べ普く無際の土を照らし、三垢の冥を消除して廣く衆の厄難を濟い、彼の智慧の眼を開いて、此の昏盲の闇を

滅し、諸の惡道を閉塞して、善趣の門に通達せしむ。功祚満足すること成じて、威曜十方に朗らかなり。日月重暉を戢め、天光も穩れて現ぜず。衆の爲に法藏を開いて、廣く功德の寶を施し、常に大衆の中に於いて、說法獅子吼したもう。一切の佛を供養し、衆の徳本を具足し、願慧悉く成満して、

三界の雄となることを得たまえり。佛の無礙智の如きは、通達して照したまわずということなし。願くは我が功慧の力此の最勝尊に等しからむ。斯の願若し剋果せば、大千應に感動すべし。虚空の諸の天人當に珍妙の華を雨らすべし。

九、本誓偈

只今お読みしたお経の功德を
極樂往生の為におふりむけいたします

彌陀本誓願

極樂之要門

定散等回向

速證無生身

彌陀の本誓願は

極樂の要門なり

定散等しく回向して

速やかに無生身を證せん

十、十念

南無阿彌陀佛 十遍

十一、宗祖 法然上人御遺訓 一枚起請文

唐土我朝に、もろもろの智者達の、沙汰し申さるる觀念
の念にもあらず。また學問をして、念の心を悟りて申す
念佛にもあらず。ただ往生極樂のためには、南無阿彌陀
佛と申して、うたがいなく往生するぞと思ひ取りて申す

外には別の子細候わず。但し三心四修と申すことの候う
は、皆決定して南無阿彌陀佛にて往生するぞと思いうち
にこもり候うなり。この外に奥ふかき事を存ぜば、二尊
のあわれみにはずれ、本願にもれ候うべし。

念佛ねんぶつを信しんぜん人ひとは、たとい一いち代だいの法ほうをよくよく學がくすとも、
一文いちもん不知ふちの愚ぐ鈍どんの身みになして、尼あま入にゅう道どうの無む智ちのともが
らに同おなじうして、智ち者しゃのふるまいをせずしてただ一向いっこうに
念佛ねんぶつすべし。

證しょうのためりょうしゅいんに兩りょう手しゅいん印いんをもつてす。

淨じよう土ど宗しゆうの安あん心じん起き行ぎようこの一いっ紙しに至し極ごくせり。

源げん空くうが所しよ存ぞん、この外ほかに全まったく別べつ義ぎを存ぞんぜず、滅めつ後ごの邪じゃ義ぎを
ふせがながたために所しよ存ぞんをしるし畢おわんぬ。

建けん曆りやく二に年ねん正しやう月げつ二に十じゆう三さん日にち

大だい師し在ざい御ご判はん

十二、攝しやう益やく文もん

阿あ弥あ陀だ様やうの光くわう明めいは あらゆる世界せかいを照てらし
念ねん仏ぶつ者しやを救きうい取とつてお捨すてになることことはありません

光こ明み徧へん照じやう 十じつ方ぽう世せ界かい

念ねん佛ぶつ衆しゆ生じよ 撰せつ取しゆ不ふ捨しや

如に來よらいの光くわう明めいは 徧あまねく十じつ方ぽう世せ界かいを照てらして

念ねん佛ぶつの衆しゆ生じよを 撰せつ取しゆして捨すてたまわず

念佛ねんぶつを信しんぜん人ひとは、たとい一代いちだいの法ほうをよくよく學がくすとも、
一文いちもん不知ふちの愚鈍ぐどんの身みになして、尼入道あまにゅうどうの無智むちのともが
らに同おなじうして、智者ちしやのふるまいをせずしてただ一向いっこうに
念佛ねんぶつすべし。

證しょうのためりようしゅいんに兩手印りようしゅいんをもつてす。

淨土宗じょうどしゅうの安心起行あんじんきぎようこの一紙いっしに至極しごくせり。

源空げんくうが所存しよぞん、この外ほかに全まったく別義べつぎを存ぞんぜず、滅後めつごの邪義じゃぎを
ふせがながたために所存しよぞんをしるし畢おわんぬ。

建曆二年正月二十三日けんりやくにねんしやうがつにじゅうさんにち

大師在御判だいしざいごはん

十二、攝益文しやうやくもん

阿弥陀様の光明は あらゆる世界を照らし
念仏者を救い取つてお捨てになることはありません

光明徧照こうみょうへんじやう 十方世界じつぱうせかい

念佛衆生ねんぶつしゅじやう 撰取不捨せんしゅふしや

如来の光明は 徧あまねく十方世界じつぱうせかいを照てらして

念佛の衆生を 撰取して捨てたまわず

十三、念佛一会

高らかにこころゆくまでお念仏をお称えします

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 (くり返し)

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 (くり返し)

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

十四、別廻向

○奉酬大悲願王阿彌陀佛一切三寶廣大慈恩 十念

○高祖光明善導大師 宗祖圓光東漸慧成弘覺慈教

明照和順法爾大師法然上人上酬慈恩 十念

○願以上來所修功德皆悉廻向 (何々家先祖代々・法名)

追善菩提 十念

十五、總廻向偈

これまで修めてきたすべての功德をあらゆる人々に施して 共に極樂に往生いたします

願以此功德 平等施一切

同發菩提心 往生安樂國

願わくは此の功德をもつて 平等一切に施し

同じく菩提心を發して 安樂國に往生せん

十六、十念

南無阿彌陀佛 十遍

●中
●小
●大

十七、總願偈

我も他の人々も同じようにお念仏の功德にあずかり
皆共々に極樂に往生して成仏することを願います

衆生無邊誓願度・煩惱無邊誓願斷

法門無盡誓願知・無上菩提誓願證

自他法界同利益・共生極樂成佛道

衆生は無邊なれども誓つて度せんことを願う 煩惱は無邊なれ

ども誓つて斷ぜんことを願う 法門は無盡なれども誓つて知ら

んことを願う 菩提は無上なれども誓つて證せんことを願う

自他法界は利益を同じくし 共に極樂に生じて佛道を成ぜん

十八、三身禮

尊いご功德により お浄土へお迎えいただける阿彌陀様に
心からの帰依をもつて お称えいたします

南無西方極樂世界本願成就身阿彌陀佛

南無西方極樂世界光明攝取身阿彌陀佛

南無西方極樂世界來迎引接身阿彌陀佛

西方極樂世界の 本願成就したもう阿彌陀佛に歸依し奉る

西方極樂世界の 光明攝取したもう阿彌陀佛に歸依し奉る

西方極樂世界の 來迎引接したもう阿彌陀佛に歸依し奉る

十九、送佛偈

香華をささげ心からみ仏をお送りいたします 願わくは
慈悲のみ光でかなたより護り念じてくださいますように

請佛隨緣還本國・普散香華心送佛
願佛慈心遙護念・同生相勸盡須來

請じたてまつる佛縁に随つて本國に還りたまえ 普く香華を散

じて心に佛を送りたてまつる 願くは佛の慈心遙かに護念し

同生相勸む 須く 盡く來るべし

二十、十念 南無阿彌陀佛 十遍

〜おつとめ終わり〜

佛說無量壽經 歎佛頌

光顏巍巍 威神無極 如是燄明 無與等者
日月摩尼 珠光燄耀 皆悉隱蔽 猶若聚墨
如來容顏 超世無倫 正覺大音 響流十方
戒聞精進 三昧智慧 威德無侶 殊勝希有
深諦善念 諸佛法海 窮深盡奧 究其涯底

無明欲怒 世尊永無 人雄師子 神德無量
功勲廣大 智慧深妙 光明威相 震動大千
願我作佛 齊聖法王 過度生死 靡不解脫
布施調意 戒忍精進 如是三昧 智慧爲上
吾誓得佛 普行此願 一切恐懼 爲作大安

假使有佛 百千億萬 無量大聖 數如恒沙
供養一切 斯等諸佛 不如求道 堅正不卻
譬如恒沙 諸佛世界 復不可計 無數刹土
光明悉照 徧此諸國 如是精進 威神難量
令我作佛 國土第一 其衆奇妙 道場超絕

國如泥洹 而無等雙 我當哀愍 度脫一切
十方來生 心悅清淨 已到我國 快樂安穩
幸佛信明 是我眞證 發願於彼 力精所欲
十方世尊 智慧無礙 常令此尊 知我心行
假令身止 諸苦毒中 我行精進 忍終不悔

佛說觀無量壽經第九眞身觀文

佛告阿難及韋提希此想成已次當更觀無量壽佛身相光明
阿難當知無量壽佛身如百千萬億夜摩天閻浮檀金色佛身高六十
萬億那由他恒河沙由旬眉間白毫右旋婉轉如五須彌山佛眼

如四大海水青白分明身諸毛孔演出光明如須彌山彼佛圓光如
百億三千大千世界於圓光中有百萬億那由他恒河沙化佛一一化
佛亦有衆多無數化菩薩以爲侍者無量壽佛有八萬四千相一一相
各有八萬四千隨形好一一好復有八萬四千光明一一光明徧照

十方世界・念佛衆生・攝取不捨・其光明相好・及與化佛・不可具說・但當
憶想・令心眼見・見此事者・即見十方・一切諸佛・以見諸佛故・名念佛三
昧・作是觀者・名觀一切佛身・以觀佛身故・亦見佛心・佛心者・大慈悲是
以無緣慈・攝諸衆生・作此觀者・捨身他世・生諸佛前・得無生忍・是故

智者・應當繫心・諦觀無量壽佛・觀無量壽佛者・從一相好入・但觀眉間
白毫・極令明了・見眉間白毫者・八萬四千相好・自然當現・見無量壽佛
者・即見十方・無量諸佛・得見無量諸佛故・諸佛現前授記・是爲徧觀・一
切色身想・名第九觀・作此觀者・名爲正觀・若他觀者・名爲邪觀

佛說阿彌陀經

姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

如是我聞・一時佛在舍衛國・祇樹給孤獨園・與大比丘衆・千二百五十人
俱・皆是大阿羅漢・衆所知識・長老舍利弗・摩訶目犍連・摩訶迦葉・摩訶
迦旃延・摩訶俱絺羅・離婆多・周利槃陀伽・難陀・阿難陀・羅睺羅・憍梵波
提・賓頭盧・頗羅墮・迦留陀夷・摩訶劫賓那・薄拘羅・阿菟樓駄・如是等

諸大弟子・并諸菩薩・摩訶薩・文殊師利法王子・阿逸多菩薩・乾陀訶提
菩薩・常精進菩薩・與如是等・諸大菩薩・及釋提桓因等・無量諸天大衆
俱・爾時佛告・長老舍利弗・從是西方・過十萬億佛土・有世界・名曰極
樂・其土有佛・號阿彌陀・今現在說法・舍利弗・彼土何故・名爲極樂・其
國衆生・無有衆苦・但受諸樂・故名極樂・又舍利弗・極樂國土・七重欄楯・

七重羅網·七重行樹·皆是四寶·周匝圍繞·是故彼國·名曰極樂·又舍利弗·極樂國土·有七寶池·八功德水·充滿其中·池底純以金沙布地·四邊階道·金銀瑠璃·玻瓈合成·上有樓閣·亦以金銀琉璃·玻瓈磈磈·赤珠碼碯·而嚴飾之·池中蓮華·大如車輪·青色青光·黃色黃光·赤色赤光·白色白光·微妙香潔·舍利弗·極樂國土·成就如是功德莊嚴·

又舍利弗·彼佛國土·常作天樂·黃金爲地·晝夜六時·而雨曼陀羅華·其國衆生·常以清旦·各以衣祴·盛衆妙華·供養他方·十萬億佛·卽以食時·還到本國·飯食經行·舍利弗·極樂國土·成就如是功德莊嚴·復次舍利弗·彼國常有種種奇妙·雜色之鳥·白鵠孔雀·鸚鵡·舍利·迦陵頻伽·共命之鳥·是諸衆鳥·晝夜六時·出和雅音·其音演暢·五根五力·

七菩提分·八聖道分·如是等法·其土衆生·聞是音已·皆悉念佛·念法·念僧·舍利弗·汝勿謂此鳥·實是罪報所生·所以者何·彼佛國土·無三惡趣·舍利弗·其佛國土·尚無二惡道之名·何況有實·是諸衆鳥·皆是阿彌陀佛·欲令法音宣流·變化所作·舍利弗·彼佛國土·微風吹動·諸寶行樹·及寶羅網·出微妙音·譬如百千種樂·同時俱作·聞是音者·皆自然生·

念佛念法·念僧之心·舍利弗·其佛國土·成就如是功德莊嚴·舍利弗·於汝意云何·彼佛何故號阿彌陀·舍利弗·彼佛光明無量·照十方國·無所障礙·是故號爲阿彌陀·又舍利弗·彼佛壽命·及其人民·無量無邊·阿僧祇劫·故名阿彌陀·舍利弗·阿彌陀佛·成佛已來·於今十劫·又舍利弗·彼佛有無量無邊·聲聞弟子·皆阿羅漢·非是算數·之所能知·

諸菩薩衆亦復如是舍利弗彼佛國土成就如是功德莊嚴

又舍利弗極樂國土衆生生者皆是阿鞞跋致其中多有 一生補處
其數甚多非是算數所能知之但可以無量無邊阿僧祇劫說舍利
弗衆生聞者應當發願願生彼國所以者何得與如是諸上善人俱
會一處舍利弗不可以少善根福德因緣得生彼國

舍利弗若有善男子善女人聞說阿彌陀佛執持名號若一日若
二日若三日若四日若五日若六日若七日一心不亂其人臨
命終時阿彌陀佛與諸聖衆現在其前是人終時心不顛倒即
得往生阿彌陀佛極樂國土舍利弗我見是利故說此言若有
衆生聞是說者應當發願生彼國土

舍利弗如我今者讚歎阿彌陀佛不可思議功德東方亦有阿閼
鞞佛須彌相佛大須彌佛須彌光佛妙音佛如是等恒河沙數
諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界說誠實言汝
等衆生當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經

舍利弗南方世界有日月燈佛名聞光佛大焰肩佛須彌燈佛
無量精進佛如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千
大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱讚不可思議功德一切諸佛
所護念經

舍利弗西方世界有無量壽佛無量相佛無量幢佛大光佛大明佛
寶相佛淨光佛如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相

へんぶーさんぜん だいせんせーかい せつじよーじつごん によーとーしゆーじよーとーしんぜーしよーさん ふーかーしーぎーくーどく
徧覆二千大千世界 說誠實言 汝等衆生 當信是稱讚 不可思議功德
一切諸佛 所護念經

しやーりーほつ ほつほーせーかい うーえんけんぶつ さいしよーおんぶつ なんそーぶつ にっしよーぶつ もーみよーぶつ によーぜー
舍利弗 北方世界 有焰肩佛 最勝音佛 難沮佛 日生佛 網明佛 如是

とーごーがーしやーしゆーしよーぶつ かくおーごーこく しゆつこーじよーぜつそー へんぶーさんぜん だいせんせーかい せつじよーじつ
等 恒河沙數諸佛 各於其國 出廣長舌相 徧覆三千大千世界 說誠實
言 汝等衆生 當信是稱讚 不可思議功德 一切諸佛 所護念經

しやーりーほつ げーほーせーかい うーしーしーぶつ みよーもんぶつ みよーこーぶつ だつまーぶつ ほーどーぶつ じーほーぶつ
舍利弗 下方世界 有師子佛 名聞佛 名光佛 達摩佛 法幢佛 持法佛

によーぜーとーごーがーしやーしゆーしよーぶつ かくおーごーこく しゆつこーじよーぜつそー へんぶーさんぜん だいせんせーかい せつ
如是等 恒河沙數諸佛 各於其國 出廣長舌相 徧覆三千大千世界 說
誠實言 汝等衆生 當信是稱讚 不可思議功德 一切諸佛 所護念經

しやーりーほつ じよーほーせーかい うーほんのんぶつしゆく おーぶつ こーじよぶつ こーこーぶつ だいえんけんぶつ ぎつしき
舍利弗 上方世界 有梵音佛 宿王佛 香上佛 香光佛 大焰肩佛 雜色

ほーけーぐんしんぶつ しやーらーじゆーおーぶつ ほーけーとくぶつ けんしつさいぎーぶつ によしゆーみーせんぶつ によーぜーとー
寶華嚴身佛 娑羅樹王佛 寶華德佛 見一切義佛 如須彌山佛 如是等

ごーがーしやーしゆーしよーぶつ かくおーごーこく しゆつこーじよーぜつそー へんぶーさんぜん だいせんせーかい せつじよーじつごん
恒河沙數諸佛 各於其國 出廣長舌相 徧覆三千大千世界 說誠實言

によーとーしゆーじよーとーしんぜーしよーさん ふーかーしーぎーくーどく いっさいしよーぶつ しよーごーねんぎよー
汝等衆生 當信是稱讚 不可思議功德 一切諸佛 所護念經

しやーりーほつ おーによーいーうんがー がーこーみよーいー いっさいしよーぶつ しよーごーねんぎよーしやーりーほつ によくうーぜんなん
舍利弗 於汝意云何 何故名爲 一切諸佛 所護念經 舍利弗 若有善男

しーぜんによーにん もんぜーしよーぶつ ぎゆーきよーみよーしやー ぜーしよーぜんなんしーぜんによーにん かいいーいっさいしよーぶつ ぐー
子善女人 聞是諸佛 及經名者 是諸善男子善女人 皆爲 一切諸佛 共
所護念 皆得不退轉 於阿耨多羅三藐三菩提 是故舍利弗 汝等皆當

しんじゆーがーごーぎゆーしよーぶつしよーせつ しやーりーほつ によくうーにん いーほつがん こんぼつがん とーほつがん
信受我語及諸佛所說 舍利弗 若有人 已發願 今發願 當發願

よくしよーあーみーだーぶつこくしやー ぜーしよーにんとー かいとくふーたいてん おーあーのくたーらー さんみやくさん
欲生阿彌陀佛國者 是諸人等 皆得不退轉 於阿耨多羅三藐三
菩提 於彼國土 若已生 若今生 若當生 是故舍利弗 諸善男子

ぜんによーにん によくうーしんじやー おーとーほつがん しよーひーこくどー
善女人 若有信者 應當發願 生彼國土

舍利弗・如我今者・稱讚諸佛・不可思議功德・彼諸佛等・亦稱說
我・不可思議功德・而作是言・釋迦牟尼佛・能為甚難・希有之事・
能於娑婆國土・五濁惡世・劫濁・見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁中・得
阿耨多羅・三藐三菩提・為諸衆生・說是一切世間・難信之法・舍
利弗・當知我於・五濁惡世・行此難事・得阿耨多羅・三藐三菩提・

為一切世間・說此難信之法・是為甚難・佛說此經已・舍利弗・及諸
比丘・一切世間・天人阿修羅等・聞佛所說・歡喜信受・作禮而去・

佛說阿彌陀經

三尊禮

日中禮讚の文 阿彌陀如來・觀音菩薩・勢至菩薩の
「三尊」の恩徳を讃え奉ります

南無至心歸命禮

西方阿彌陀佛

彌陀身色如金山

相好光明照十方

唯有念佛蒙光攝

當知本願最為強

六方如來舒舌證

專稱名號至西方

到彼華開聞妙法

十地願行自然彰

願共諸衆生

往生安樂國

願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
普^ふ勸^か有^ん緣^う常^じ憶^お念^ん
法^ほ界^{かい}傾^き搖^よ如^に轉^て蓬^ぶ
永^よ絕^ぜ胞^ほ胎^た證^し六^ろ通^つ
化^け佛^ぶ雲^う集^じ滿^ま虛^こ空^う
有^う緣^え衆^し生^じ蒙^む光^こ觸^そ
增^ぞ長^じ智^ち慧^え超^ち三^{さん}界^{がい}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ
勢^{せい}至^し菩^ぼ薩^{さつ}難^{なん}思^し議^ぎ
威^い光^こ普^ふ照^し無^む邊^{へん}際^{がい}
法^ほ界^{かい}傾^き搖^よ如^に轉^て蓬^ぶ
化^け佛^ぶ雲^う集^じ滿^ま虛^こ空^う
有^う緣^え衆^し生^じ蒙^む光^こ觸^そ
增^ぞ長^じ智^ち慧^え超^ち三^{さん}界^{がい}

有^う緣^え衆^し生^じ蒙^む光^こ觸^そ
增^ぞ長^じ智^ち慧^え超^ち三^{さん}界^{がい}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ
勢^{せい}至^し菩^ぼ薩^{さつ}難^{なん}思^し議^ぎ
威^い光^こ普^ふ照^し無^む邊^{へん}際^{がい}
應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
恒^ご舒^{じょ}百^{ひゃく}億^{おく}光^こ王^{おう}手^{しゅ}
普^ふ攝^{しやう}有^う緣^{えん}歸^き本^{ほん}國^{ごく}
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^じ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^じ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ

應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
恒^ご舒^{じょ}百^{ひゃく}億^{おく}光^こ王^{おう}手^{しゅ}
普^ふ攝^{しやう}有^う緣^{えん}歸^き本^{ほん}國^{ごく}
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^じ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^じ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ

一切^い五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しやう}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しやう}
一^い切^っ五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}

願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
普^ふ勸^か有^ん緣^う常^じ憶^よ念^ん
法^ほ界^{かい}傾^き搖^よ如^に轉^て蓬^ぶ
永^よ絕^ぜ胞^ほ胎^た證^し六^ろ通^つ
化^け佛^ぶ雲^う集^じ滿^ま虛^こ空^う
有^う緣^え衆^し生^じ蒙^む光^こ觸^そ
增^ぞ長^じ智^ち慧^え超^ち三^{さん}界^{がい}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ
勢^{せい}至^し菩^ぼ薩^{さつ}難^{なん}思^し議^ぎ
威^い光^こ普^ふ照^し無^む邊^{へん}際^{がい}
應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
一^い切^つ五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しょう}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ

有^う緣^え衆^し生^じ蒙^む光^こ觸^そ
增^ぞ長^じ智^ち慧^え超^ち三^{さん}界^{がい}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ
勢^{せい}至^し菩^ぼ薩^{さつ}難^{なん}思^し議^ぎ
威^い光^こ普^ふ照^し無^む邊^{へん}際^{がい}
應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
一^い切^つ五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しょう}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ

願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
恒^ご舒^{じょ}百^{ひゃく}億^{おく}光^こ王^{おう}手^{しゅ}
普^ふ攝^し有^う緣^{えん}歸^き本^{ほん}國^{ごく}
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
一^い切^つ五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しょう}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ

願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
恒^ご舒^{じょ}百^{ひゃく}億^{おく}光^こ王^{おう}手^{しゅ}
普^ふ攝^し有^う緣^{えん}歸^き本^{ほん}國^{ごく}
願^が共^ん諸^ぐ衆^し生^よ 往^お生^じ安^じ樂^よ國^こ
應^お現^{げん}身^{しん}光^こ紫^し金^{こん}色^{じき}
相^そ好^ご威^い儀^ぎ轉^{てん}無^む極^{ごく}
一^い切^つ五^ご道^ど内^の身^{しん}中^{じゅう}
六^{ろく}時^じ觀^{かん}察^{さつ}三^{さん}輪^{りん}應^{おう}
觀^{かん}音^{のん}菩^ぼ薩^{さつ}大^{だい}慈^じ悲^ひ
已^い得^{とく}菩^ぼ提^{だい}捨^{しゃ}不^ふ證^{しょう}
南^な無^む至^し心^{しん}歸^き命^み禮^ら
西^{さい}方^{ほう}阿^あ彌^み陀^だ佛^ぶ

發願文

善導大師のお言葉 命終にのぞむ時み仏が来迎して極樂に往生することをお願いさらには苦しみの衆生を救う身となることを願います

願わくは弟子等。命終の時に臨んで、心顛倒せず、心錯亂せず、心失念せず、身心に諸の苦痛無く、身心快樂にして、禪定に入るが如く。聖衆現前したまい、佛の本願に乗じて、

阿彌陀佛國に上品往生せしめたまえ。彼の國に到り已て、六神通を得て、十方界に入つて苦の衆生を救攝せん。虚空法界盡きんや。

我が願も亦是の如くならん。發願し己んぬ。至心に阿彌陀佛に歸命したてまつる。

法然上人御法語 一紙小消息

末代の衆生を、往生極樂の機にあてて見るに、行すくなしとても疑ふべからず、一念十念に足ぬべし。罪人なりとても疑ふべからず、罪根ふかきをもきらわじとのたまえり。時くだれりとても疑ふべからず、法滅以後の衆生なおもて往生すべし況や近來をや。我身わろしとても疑ふべからず、

自身はこれ煩惱具足せる凡夫なりとのたまへり。十方に淨土おおけれど西方を願ふは、十惡五逆の衆生の生るる故なり。諸佛の中に彌陀に歸したてまつるは三念五念に至るまで、みずから來迎し給ふ故なり。諸行の中に念佛を用るは、かの佛の本願なる故なり。いま彌陀の本願に乗じて往生しなんに、願として成ぜずと云ふ事あるべからず。本願に乗ずる事は、信心のふかきによるべし。うけ難き人身をうけて、あひ難き本願にあひて、

發し難き道心を發して、離れ難き輪廻の里を離れて、生まれ難き淨土に
往生せん事、悦びの中の悦びなり。罪は十悪五逆の者も生ると信じて、
少罪をも犯さじと思ふべし、罪人なお生る、況や善人をや。行は一念十
念なお空しからずと信じて、無間に修すべし、一念なお生る、況や多念
をや。阿彌陀佛は、不取正覺の言を成就して、現に彼の國にましますば、
定んで命終の時は來迎したまはん。

釋尊は善哉、我が教えに従ひて生死を離ると知見したまひ。六方の諸佛
は悦ばしい哉、我が證誠を信じて、不退の淨土に生ると悦び給らんと。
天に仰ぎ地に臥して悦ぶべし、このたび彌陀の本願にあふ事を。行住坐
臥にも報ずべし、彼の佛の恩徳を。頼みても頼むべきは乃至十念の詞
信じても猶信ずべきは必得往生の文なり。

光明攝取御和讃

古歌
三宅勝作曲

一、人のこの世はながくして かわらぬ春とおもいしに
無常の風はへだてなく はかなき夢となりにけり
二、あつき涙のまごころを みたまの前にささげつつ
ありしあの日のおもいでに おもかげしのぶもかなしけれ

三、されど仏のみ光に 攝取されゆく身にあれば
おもいわずらうこともなく とこしえかけて安からん

南無阿彌陀佛 阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 阿彌陀佛

追善供養御和讃

成田 敦教 作詞
松濤 基 作曲

一、 弥陀のみ光 念じつつ 面影ともに 懐かしみ
回向ささぐる 御供養 み霊よここに 受け給え
南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

二、 今日集いの真心を ゆかりの我等 念仏の
回向ささぐる 御功德 うけて蓮に おわしませ
南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

三、 浄きみちびき 願くは 此世の務 日々の業
われら感謝と 報恩の 明るき世にぞ なし給え
南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

宗 歌 月影の御詠歌 法然上人御作

月かげの
いたらぬさとは
なけれども
ながむる人の
こころにぞすむ

月の光は山や里をくまなく照らしていますが
これを眺める人だけが月を賞でることができません
同じように 阿弥陀さまのお救いのみ光はそのみ心を
いただいて お念仏を申す人のみに宿り澄みわたるの
であります
しっかりとお念仏に励みなさい

私たちの浄土宗

宗祖 法然上人（源空）（西暦一一三三年～西暦一二二二年）
 開宗 承安五年（西暦一二七五年）
 本尊 阿弥陀仏（阿弥陀如来）
 み教え 阿弥陀さまの平等のお慈悲（ご本願）を信じ、「南無阿弥陀仏」と

み名を声に出して念仏を称えることを行とし、人格を高め、
 社会のためにつくし、明るい安らかな毎日をおくり、
 西方極楽浄土に生まれることを願う信仰です。

お経 お釈迦さまが説かれた『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』
 の浄土三部経をよりどころとします。

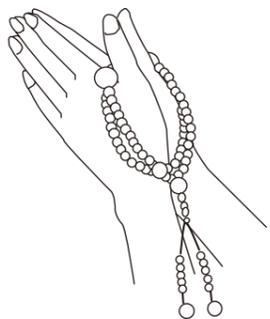
総大本山

総本山	京都	知恩院
大本山	東京	増上寺
大本山	京都	金戒光明寺
大本山	京都	知恩寺
大本山	京都	清浄華院
大本山	福岡	善導寺
大本山	神奈川	光明寺
大本山	長野	善光寺大本願

本山	滋賀	蓮華寺
特別寺院	岡山	誕生寺
特別寺院	京都	光照院門跡
特別寺院	京都	得浄明院
特別寺院	京都	三時知恩寺

おまいりの作法

○合掌



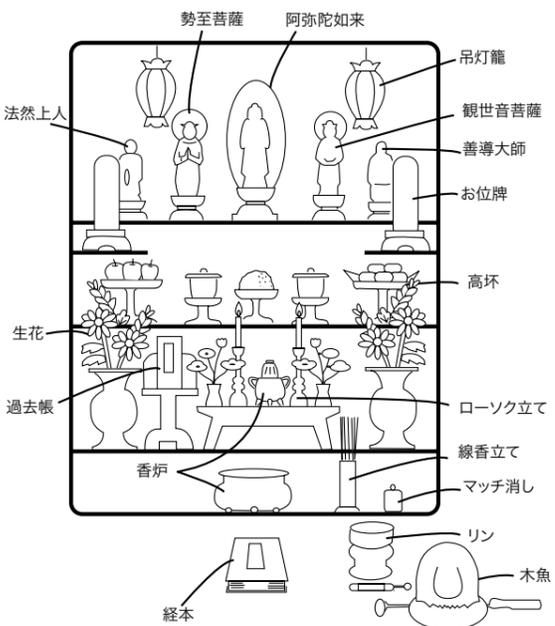
浄土宗では堅実心合掌といって図の様にいたします。合掌の姿はいたらない我が身が阿弥陀様に帰依し救われていく願いを表します。用いる数珠は二つの輪をつなげた二連数珠（日課数珠）が基本です。

○焼香

私たちの真心の表れを香に託して献げ、身心清浄・仏諸菩薩の来臨を願います。右手の親指、人差し指、中指の三指で香をつまみ、これを仰向け、左手で受けて、頂いた後に薫じます。（回数ハ心をこめて一回、二回、ないし三回と適宜に行います）

お仏壇のまつり方

お仏壇の最上段中央には、阿弥陀さまをおまつりします。善導・法然両大師さまをおまつりし、さらに観音・勢至両菩薩さまを加えました弥陀三尊さまをおまつりしてください。私たちは仏の子として、そしてご恩深きご先祖さまのご供養のために、お仏壇を常にきれいに保ち、感謝の気持ちをもって、お線香、お灯明、お花、お供物などをお供えし、ご飯やお水、お茶を給仕させていただくのであります。



お仏壇は、ご本尊さまを中心に、その仏国土である極楽浄土をあらわしています。

食作法

ほんとうに生きんがために いまこの食をいただきます

食前のことば

われここに食をうく
つつしみて 天地の恵みと 人々の労を謝し奉る
十念 いただきます

食後のことば

われ食を終りて 心豊かに 力身に満つ
おのがつとめにいそしみ 誓って 御恩に 報い奉らん
十念 ごちそうさま